

札幌市スポーツ推進計画掲載事業の令和元年度（2019年度）実施状況

自己評価基準	◎：当初の予定通り事業を実施できたもの ○：概ね予定通り事業を実施できたもの ▲：予定通り事業を実施できず今後に向けて検討を要するもの -：外的要因により未実施のもの、当該年度時点で事業化に至っていないもの
--------	--

目標１ スポーツの力で「市民」がかがやく

方針１ ライフステージや体力に応じたスポーツ活動の推進

施策１ 子ども、高齢者、子育て世代、ビジネスパーソンのスポーツ参加を目指します

(１) 子どもがスポーツに参加する機会の提供

具体的取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
子どものスポーツ参加のきっかけづくり	ウィンタースポーツ塾 (さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業)	子どもたちを対象にウィンタースポーツを体験できる機会を提供 実施種目：クロスカントリースキー、ジャンプ、リュージュ、スノーボード、カーリング、フィギュアスケート	・体験会3つ実施(ウィンタースポーツ塾 in summer、ウィンタースポーツ塾 エントリーコース、ウィンタースポーツ塾 エキスパートコース) ・延べ参加者数1,145人	◎
	部活動における外部人材の活用事業	各中学校へ、部の運営を単独で行うことができる部活動指導員や、顧問教諭が不在でも単独で技術指導ができる特別外部指導者を派遣	・部活動数維持のため、顧問教諭が不在でも生徒の指導や大会引率が可能な外部顧問を9名派遣したほか、特別外部指導者を53名派遣した。	◎
地域スポーツ指導者の中学校への派遣	地域スポーツ指導者派遣事業 (ウィンタースポーツ普及振興事業)	ウィンタースポーツに生涯にわたって親しめるよう、子どもたちに対してウィンタースポーツを始めるきっかけづくりと学習環境の充実を図る	・中学校体育授業の補助指導者として、22校に延べ382人派遣。	◎
スポーツ施設を戦略的に活用したスポーツを始めるきっかけづくりの検討	さっぽろジュニアアスリート発掘・育成 (さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業)	札幌市スポーツ協会が保有する資源を最大限活用することで、優れた素質を有する子どもたちを早期に見出し、札幌から世界に羽ばたくトップアスリートの育成を図る。	・冬季競技の育成種目、5種目の選定を行った。(スノーボード、スキージャンプ、ノルディック複合、フリースタイル(モーグル)、カーリング)	◎
子どもの体力向上推進事業	子どもの体力・運動能力向上事業	子どもの体力、運動能力の向上を目指し、大学と連携してその方策を検討する。また運動機会の少ない子どもを対象にしたスポーツイベントを開催するなど、子どもの運動・スポーツ機会の一層の充実を図る	・大学と連携し、研究指定校において、子どもを対象としたアンケート調査等を実施したほか、全小中学校においてなわ跳び運動の一層の充実を図った。	◎
児童会館 中学生・高校生夜間利用「ふりむ」の実施	児童会館における中・高校生の利用促進事業	市内の児童会館の開設時間を延長することにより、中学生、高校生の放課後の集う場所を確保しスポーツ等を通じた健全育成と異年齢、異世代との交流の場を作る	[実施館数] 105館(令和2年1月、羊丘児童会館開館) [利用人数] 41,541人	◎

(２) ビジネスパersonや子育て世代に対するスポーツ機運の醸成

具体的取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
スポーツに対する意識の改善	大通駅～バスセンター前駅地下コンコース内へのサイン掲出	地下鉄利用者のサービス向上に加えて、市民のスポーツ意識の啓発を図るため、大通駅・バスセンター駅間の距離、歩行による消費カロリー、スポーツ標語を示したものに更新。	・バスセンター前駅地下コンコース内にサイン(スポーツ啓発ポスター)を引き続き掲出した。	◎
子育て世代のスポーツ参加に向けた取組	各区体育館におけるスポーツ教室事業等 (体育施設運営管理事業)	利用者のニーズに合わせた、親子対象教室や託児付き教室を自主事業として実施	・東区・白石区体育館にてエアロビクス・ヨガの託児付き教室を実施。 ・体育館グループにおいては北区体育館他4施設にて親子参加型の運動教室を実施。 ・温水プールグループは豊平公園温水プール他3施設にて親子参加型水泳教室を実施。	◎
ウォーキング推進キャンペーンの実施	「ウォークさっ歩ろ」の啓発 各区におけるウォーキング推進事業 例：白石健康づくり推進事業	ウォーキングを通じて、市民の皆さんがいつでも元気であり続けること、そして札幌が「歩きやすい街」、「歩いて楽しい街」、「歩きたくなる街」として、国内外に広く知られるようになることを目指す。 健康を意識し運動者食生活改善に向けて自発的に行動する区民を増やすため、ウォーキングマップの作成や各種スポーツ大会への支援により、気軽にウォーキングやスポーツに親しめる環境を整える	・各区で作成しているウォーキングマップを引き続き配架 ・「白石区ウォーキングマップ」を4,000部増刷	○
スポーツ活動を促進するインセンティブの検討	働く世代への健康増進アプローチ研究事業 健康ポイント事業	健康課題の多い働く世代を対象に、健康行動につながる支援を行い、その結果検証からアプローチ方法を分析し効果的な施策を検討。 「健康ポイント」を提供することによって、参加者の健康行動などを促進するもの。また、特定エリア(チ・カ・ホ等)における移動軌跡や、歩数、体組成など、その変容についてデータ分析を行い、今後の健康増進事業やまちづくり事業に活用する。	・研究デザインの構築、中小企業向け調査及び他都市ICT事例調査の実施 ・2019年11月～2020年2月に、1,000名を超える市民を対象にインセンティブによる歩行増加の実証調査を実施した。参加者の歩行数は期間中の1日平均が、およそ5,600歩から9,000歩(約1.6倍)となり、当該事業が健康増進に貢献することが示された。	○

(3) 高齢者がスポーツを楽しむ機会の提供

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
全国健康福祉祭「ねんりんピック」への選手派遣	ねんりんピックへの選手派遣	高齢者を中心とするスポーツ・文化・健康・福祉などの総合的なイベントである「ねんりんピック」に、選手を派遣	・15種目96名の選手を派遣した。	◎
老人福祉センターにおける健康増進の場の提供	老人福祉センター運営	地域の高齢者の健康増進を図るため、老人福祉センターにおいて運動や介護予防の機会を提供	・健康増進に関する教養講座を10館で計69講座実施した。	○
老人クラブへの活動支援	老人クラブ活動費補助事業	健康づくり活動などの生活を豊かにする活動等を行っている老人クラブや、その活動の育成指導や連絡調整を行う老人クラブ連合会の活動を支援	・436のクラブ(計24,835名の会員)や老人クラブ連合会に補助金交付を行った。	○

施策2 スポーツに親しむための場所や機会を充実させます

(1) 安心・安全なスポーツ施設の提供

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
新中央体育館(北ガスアリーナ札幌46)の開館	中央体育館改築事業	中央体育館を建て替え、今後の市民のスポーツ活動を支える中核施設としての機能を確保します。	・再開発組合や施工者等と進捗状況の確認や施工内容の調整を行い、平成31年4月27日に新中央体育館を開館した。また、旧中央体育館の解体を実施した。	◎
スポーツ施設の計画的な保全、改修	スポーツ施設リフレッシュ事業	市民が安全・安心・快適にスポーツに親しめる環境を維持していくため、スポーツ施設の計画的な保全、改修、大型備品の更新を行う。	・手稲区体育館競技室床保全 ・スポーツ交流施設ビッチャーマウンド等保全 ・スポーツ交流施設ラウンジ開き扉交換業務 ・円山陸上競技場スタンドベンチ保全 ・白石区体育館競技室床保全	◎
将来を見据えたスポーツ施設の再配置、再整備の検討	スポーツ施設配置・活用計画策定事業	今後の人口減少や超高齢社会、多様化するニーズに対応するため、オリパラ等の競技大会への対応や更新費用の平準化等を考慮した計画を策定	・計画の策定に向けて、各種検討や関係者による調整等を行ったが、策定には至らず、2020年度に策定予定である。	▲

(2) スポーツを実施する機会の提供・情報発信

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
学校開放の実施	学校開放事業(学校施設等開放事業)	小中学校の体育施設を市民へ開放し、身近なスポーツ活動の場を提供(体育館、グラウンド、格技室)	・2019年度も小中学校の体育施設を市民へ開放し、市民のスポーツ活動の場の提供を継続。体育館の開放率は88.2%となった。	◎
スポーツ施設供用時間の延長の検討	どうぎんカーリングスタジアムの供用時間の延長(体育施設運営管理事業)	競技力の向上と裾野拡大を図るため、ネーミングライツを財源として、開館時間を延長	・日曜日～木曜日:1時間延長(～22:00まで) ・金曜日、土曜日:2時間延長(～23:00まで) ・257日間開館	◎
新たなパークゴルフ場の整備	公園造成事業(厚別山本公園におけるパークゴルフ場の整備)	みどりの基本計画に基づき、みどりのネットワークの骨格や街中のみどりの創出となる公園・緑地の整備を行います。(厚別山本公園におけるパークゴルフ場の整備)	厚別山本公園におけるパークゴルフ場2019.4供用開始	◎
ワールドカップ開催を契機としたラグビー競技の普及	ラグビー普及振興事業	小学生を対象としたタグラグビーの普及を行うとともに、トップレベルの試合を観戦する機会を提供	・札幌市内小学校のタグラグビー実施率55%	○
スポーツ関連情報の効果的な提供	公式ホームページ、広報誌のほか、イベント出展などを通じて随時情報提供	各事業においてそれぞれ実施	-	-
さっぽろ市民カレッジの実施	さっぽろ市民カレッジ運営	札幌市生涯学習センターを拠点として「さっぽろ市民カレッジ」を開校し、ダンスやフィットネスなど、老若男女が気軽にスポーツを体験できる講座を提供	・スポーツに関する講座を複数開講し、老若男女が気軽にスポーツ体験できる機会を提供した。 ・また、札幌も会場となったラグビーワールドカップに併せて、ラグビー観戦に関する講座を実施した。 ・4,755人が受講	◎

(3) 官民連携によるスポーツ環境整備手法の研究

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
官民連携によるスポーツ環境整備手法の研究	ウィンタースポーツ・オフシーズン練習施設整備費補助金	市民が一年を通じてウィンタースポーツに親しめる環境を整備するため、民間事業者による施設整備に対して費用の一部を補助	①ばんけいスキー場:b-SAPの整備 ②CRASS:トランポリン施設改修	◎

施策3 ウィンタースポーツを振興します

(1) ウィンタースポーツの裾野拡大に向けた取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
ウィンタースポーツ塾の開催【再掲】	ウィンタースポーツ塾(さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業)	子どもたちを対象にウィンタースポーツを体験できる機会を提供 実施種目:クロスカントリースキー、ジャンプ、リュージュ、スノーボード、カーリング、フィギュアスケート	・体験会3つ実施(ウィンタースポーツ塾in summer、ウィンタースポーツ塾エントリーコース、ウィンタースポーツ塾エキスパートコース) ・延べ参加者数1,145人	◎

ウインタースポーツ少年団の活性化	ウインタースポーツ競技団体とのマッチング（さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業）	ウインタースポーツ少年団の活性化を図るため、体験練習会の開催や広報を支援	・体験会開催（アイスホッケー、フィギュアスケート、スキージャンプ、スノーボード、フリースタイルスキー、カーリング、クロスカントリースキー） ・広報チラシを全小学生に配付	◎
カーリング競技の普及	カーリング普及促進事業（さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業）	カーリングに親しむきっかけづくりのほか、競技力向上を目指し継続的に取り組む環境の提供	・子ども向け指導プログラムには991名（160回）、競技力向上のため行ったレベル別カーリングスクールには5,297名（1,026回）の参加があった。	◎
ウインタースポーツインストラクターの派遣	さっぽろウインタースポーツパワーアップ事業（ウインタースポーツ普及振興事業）	インストラクターの派遣により、学習環境の充実を図るとともに、ウインタースポーツに親しむ習慣を育む	・スキー授業及び歩くスキー授業にインストラクターを派遣。 ・スキー学習支援：派遣78校延べ978人 ・歩くスキー：派遣17校延べ135人	◎

（２）ウインタースポーツの経済的負担の軽減

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
ウインタースポーツ実施時の利用料金等の助成	さっぽろウインタースポーツ料金助成（ウインタースポーツ普及振興事業）	ウインタースポーツに生涯にわたって親しめるよう、子どもたちに対してリフト料金・スケート貸靴料金の助成を行い、スキー、スケートに親しむ機会を創出	・料金補助券を配付（スケート貸靴料金、スキーリフト料金） ・利用者数延べ14,955人。	◎
児童生徒を対象としたリサイクルスキーの提供	さっぽろウインタースキーリサイクル	スキー学習に向けた保護者の負担軽減を目的として、市民からリサイクル可能なスキー用具を回収し有効活用	・ホームページを改善し、リアルタイムで申込状況を確認できるようにしたこと、申込数の拡大につながり、538セット（単品含む）のリサイクルスキーを提供できた。	◎
さっぽろアスリートサポート事業	さっぽろアスリートサポート事業	次世代のトップアスリート育成及び札幌市のスポーツ活動の充実と発展に寄与する団体・個人のスポーツ活動を促進（各種大会参加経費への補助など）	・2019年度は台風19号や小雪、新型コロナウイルスの流行が影響し、スポーツ大会が中止となったことにより、補助件数は昨年度より減少した。 ・補助件数：412件 ※上記人数は、スポーツ振興基金助成金及びさっぽろアスリートサポートの合算。	○

（３）ウインタースポーツ競技大会の情報発信

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
ウインタースポーツシーズンにおける大会情報の発信	ウインタースポーツ観戦文化醸成（ウインタースポーツ普及振興事業）	コンサドーレとの「ウインタースポーツの普及振興に関する連携協定」に基づき、コンサドーレの情報発信力や興行ノウハウをいかした集客・情報発信を推進する。	・コンサドーレアカウントのSNS（facebookやInstagramなど）から大会情報を発信 ・観戦者数：3,125人（サマー550人）	◎
ウインタースポーツ競技大会の開催支援	ウインタースポーツ観戦文化醸成（ウインタースポーツ普及振興事業）	ウインタースポーツ大会の主催者と連携して、観戦環境の充実を図る。また、コンサドーレとの「ウインタースポーツの普及振興に関する連携協定」に基づき、コンサドーレの情報発信力や興行ノウハウをいかした集客・情報発信を推進する。	・開催にあたりコンサドーレも調整に入りつつ、当日はMC・DJによる会場盛り上げやトークショーの実施。コラボグッズの制作配布など。 ・観戦者数：3,125人（サマー550人）	◎

方針２ スポーツを通じた健康増進

施策４ スポーツを通じて市民生活の質の向上を図ります

（１）市民の自主的な健康づくりの推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
地域における健康づくり活動の支援	健康づくりサポーター派遣事業 清田区健康アップ推進事業	これから健康づくりを始める、又は活動をさらに活性化したいと考えている自主活動グループや町内会などの団体に対して、健康づくりサポーターを派遣 歩くことを主眼とした健康づくりやバランスの良い食習慣の普及を進め、運動、栄養の両面から健康づくりに取り組む区民を増やし、健康寿命の延伸につなげる	・趣味サークルや町内会等の自主活動グループに対し、健康づくりサポーターを派遣し、健康さっぽろ21の課題等の啓発を実施 ・区役所健康増進フロアで運動指導員による運動教室を実施（毎週土曜日、全37回、延べ利用者数3,439人）	○
ビジネスパーソン・女性の健康づくりの推進	健康推進事業	働く世代や女性の健康づくりの取組強化、推進に向けて、市民・企業・関係機関等との協働による啓発等の取組や環境整備を実施。	・企業等の持つ手法やネットワークを通じて、幅広い世代への健康に関する普及啓発を実施	○
公園などの散策できる場の提供	公園造成事業	みどりの基本計画に基づき、みどりのネットワークの骨格や街中のみどりの創出となる公園・緑地の整備を行う。	・天神山緑地（拡張整備） ・屯田西公園（拡張整備）	○

（２）健康づくりセンターの活用

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
健康度測定の推進	健康づくりセンターにおける健康づくり事業	健康づくりに必要な健康状態を把握するための医学的検査、運動負荷試験、体力測定などの検査を行い、これらに基づく個別の運動プログラムなどを作成。	・紹介キャンペーン等により新規利用者の開拓を図ったが、新型コロナウイルスの影響による休館（2月末～）や一部企画の中止等により、利用者数は昨年度より減少した。 ・利用者数：1,384人	○
有資格者による運動指導の推進	健康づくりセンターにおける健康づくり事業	市民の自主的な健康づくりを促進するため、健康運動指導士や理学療法士などが運動指導を行うほか、各区保健センターなどが主催する健康づくり事業へ有資格者を派遣し、集団的運動の実践指導を行う。	・保健センターへの周知強化により、運動指導員の派遣依頼回数は増加したが、新型コロナウイルスの影響による休館や派遣中止等により、利用者数は昨年度より減少した。 ・個別運動指導の実施：延928人 ・運動指導員派遣：延354人	○

施策5 冬季における運動習慣を推進します

(1) 気軽に行うことのできるウインタースポーツの普及

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
歩くスキーの普及振興	歩くスキー普及振興事業	市民が手軽にウインタースポーツを楽しめる環境づくりのため、中島公園及び白旗山競技場に歩くスキーコースを設置し無料で開放する	・中島公園利用者数: 4,258人 ・白旗山競技場は無人開放のため、利用者数のカウントをしていない。 ※なお、コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、3月は開放していない。	○
大通公園ウインタースポーツフェスティバルの開催支援	さっぽろスノースポーツフェスタの開催支援	ウインタースポーツに生涯にわたって親しめるよう、子どもたちに対してウインタースポーツを始めるきっかけづくりを行う(大通公園にて歩くスキー、スノーボード、スノーシュー、クロカンの体験会を開催)	・大通公園10丁目会場で、スノーシュー、クロスカントリースキー、スキー・スノーボードの各種体験会を開催。 ・また、都心クロカン大会(ジュニア大会・パラ大会)を開催。 ※2019年度から大通公園ウインタースポーツフェスティバルに代わり、さっぽろスノースポーツフェスタを開催	◎
カーリング競技の体験機会の提供	どうぎんカーリングスタジアムにおけるスポーツ教室事業等(体育施設運営管理事業)	気軽にカーリングを体験できる機会として、体験教室や団体向けレクリエーションを開催	・観光客向け、市内団体(町内会や学校等)向けに体験会を開催し、422団体を受け入れ、約6,000人の参加があった。 ※2018年度までは市が「ふらっと体験」を実施	◎

(2) 冬の暮らしをいかした健康づくりの推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
冬季の健康づくりを兼ねた雪遊びを楽しめる機会の提供	冬も楽しむウォーキング推進事業(南区)	冬もウォーキングを楽しむ人を増やすため、雪道の安全なウォーキング方法の周知やウォーキングボールの貸与など、ウォーキングを実践している団体へ冬季の参加拡大に向けた支援を実施	・ウォーキング実践団体と共同で雪中ウォーキング大会を開催。このほか、実践団体が定例会等で冬季ウォーキングを実施し、多くの区民が参加した。 ・雪中ウォーキング大会: 37人、団体実施冬季ウォーキング: 835人ほか	○
冬季における公園(スキー山)の活用促進	冬季における公園利用の推進	快適な冬の暮らしを実現するために、スキーや雪遊びなど冬季の公園活用を推進	・スキー山で使用するソリの貸出(モエレ沼公園、農試公園等)、チューブソリの貸出(円山公園)等を実施。 ・歩くスキーコースの設置及び道具貸出(モエレ沼公園、川下公園、農試公園、前田森林公園等)を実施。	◎
雪かき汗かきチャレンジ	さっぽろつ子雪かき汗かきチャレンジ	自宅周辺や公共性の高い場所等を除雪する活動を通して、児童生徒が雪に親しめるとともに、冬季における運動習慣の定着を図る	・令和元年度は降雪量が少なかった影響により、前年度に比べ達成者が減少したが、小学校低学年が積極的に雪遊びに取り組んだことで、10,000名の水準を維持した。	○

方針3 様々な形・場でのスポーツ参加を促進

施策6 地域での取組を支援し、地域コミュニティの醸成につなげます

(1) 地域におけるスポーツ活動の支援

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
地域スポーツクラブの活動支援	体育振興会への活動支援	地域におけるスポーツ活動が活発に行われるように、体育振興会のニーズに応じて、講習会講師の紹介や利用可能な助成制度の紹介するなどの協力を行う	・体育振興会4団体に対して、オリンピックをフロアカーリング・新体操の講師として派遣。	○
地域スポーツ指導者の中学校への派遣 【再掲】	地域スポーツ指導者派遣事業(ウインタースポーツ普及振興事業)	ウインタースポーツに生涯にわたって親しめるよう、子どもたちに対してウインタースポーツを始めるきっかけづくりと学習環境の充実を図る	・中学校体育授業の補助指導者として、22校に延べ382人派遣。	○
地域住民が主体となるスポーツ振興事業への支援	未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業 例: 清田区における地域スポーツ活動支援	各競技団体と共催(一部後援)でスポーツ大会を開催する。また清田区スポーツネットの活動を支援し、区内スポーツ関係情報の発信、スポーツを楽しむ機会の提供、スポーツ関係者の資質向上を図る。	・各競技団体と共催し、各種スポーツ大会を実施。スポーツネットと共催し、清田区スポーツ講演会、Fun×Fan Sports in きよたを実施。 ・スポーツを楽しむ機会の提供として、「子ども走り方教室」、「ヨガ教室」、「スイツナイトラン」を実施。	○

(2) 区の特徴やスポーツ施設を活用したスポーツの普及促進

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
区の特徴をいかしたスポーツ振興事業の実施	とよひらスポーツ応援プロジェクト事業	札幌ドームを始め多数の国際規模のスポーツ施設に恵まれた「スポーツのまち・豊平区」として、区民がスポーツに親しむための多彩な機会を提供	・各種体験会(チアダンス、スポーツクラ イミング、テニス、アイスホッケー、フットサル)の開催 ・豊平区スポーツ推進委員会との共催事業(少年・壮年野球、ドッジボール、カーリング)の開催 ・各種スポーツ大会の支援 ・スポーツ能力測定会の開催 ・スポーツバイキング2019の開催 ・ラグビーW杯関連事業(観戦デー、体験会)の開催	○
	手稲ふるさと創生事業	手稲山の自然に触れて親しんでもらえるよう手稲山ウオーキングや親子スキー教室などのイベントを開催し魅力再発見につなげる	・手稲山ウオーキング189人 ・親子スキー教室122人	
	未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業における各区のスポーツ振興事業 例: ニューススポーツふれあい事業(白石区)	年齢、性別、障害の有無といった様々なハードルを越えて、誰もが気軽にゲーム感覚で楽しむことができるニューススポーツを通じて、普段スポーツを行っていない高齢者や子どもたち等が、気軽に体を動かすことにより、区民の健康づくりや交流促進を図る。	・ニューススポーツ用具の「ストラックアウト」、「フロアカーリング」、「大なわとび」などを貸出 ・ニューススポーツ貸出件数108件、利用者数19,249人 ・なわとび大会はコロナウイルス感染症拡大防止のため中止	

施策7 スポーツを支える人材を育成し、活動を促進します

(1) スポーツボランティアの育成と推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
スポーツボランティアの活動及び研修機会の提供	スポーツボランティアの運営・管理(地域スポーツコミッション事業)	スポーツボランティア(スマイル・サポーターズ)の管理運営及び道内連携の推進	・ボランティアおもてなし検討会の実施 ・武蔵女子短期大学ゼミ生の団体登録	○

(2) スポーツ推進委員の活動促進

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
スポーツ推進委員の活動促進	スポーツ推進委員の活動促進	札幌市及び各区スポーツ事業への参画・協力をはじめ、各地域、町内会等の住民組織及び地域スポーツ団体と連携し、市民の健康・体力づくりに向けた事業の企画・運営・指導等を実施	・スポーツ推進委員会主催、共催、協力のイベントを計30イベント開催した(札幌マラソン、ひがしく健康・スポーツまつり、少年少女ドッジボール大会など)	◎

(3) クリーンでフェアなスポーツの推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
クリーンでフェアなスポーツの推進	競技団体等の連携によるスポーツ・インテグリティの啓発	スポーツ関係者によるコンプライアンス違反、体罰、暴力等の根絶を目指し情報提供等を行う	・2019年時点では事業化に至らなかったが引き続き検討中	-

施策8 トップスポーツやアスリートと連携を図ります

(1) アスリート等の派遣によるスポーツ機会の提供

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
アスリートの活用	オリンピックズキャラバン事業(アスリート活用事業)	地域で行われるスポーツ体験会等へオリンピック等を派遣して地域のスポーツ活動の振興、地域の活性化を図る	・17イベントにオリンピック等を派遣。イベント参加者延べ4,659人。	○
ウインタースポーツインストラクターの派遣	さっぽろ子ウインタースポーツパワーアップ事業(ウインタースポーツ普及振興事業)	インストラクターの派遣により、学習環境の充実を図るとともに、ウインタースポーツに親しむ習慣を育む	・スキー授業及び歩くスキー授業にインストラクターを派遣。 ・スキー学習支援: 派遣78校延べ978人 ・歩くスキー: 派遣17校延べ135人	○
大学のスポーツ資源をいかした連携	大学との連携によるスポーツ振興	大学施設を活用した事業、大学部活動との連携によるスポーツイベントの実施など	・2019年時点では事業化に至らなかったが引き続き検討中	-

(2) アスリートの育成支援

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
スポーツ施設を戦略的に活用したアスリートの発掘	さっぽろジュニアアスリート発掘・育成(さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業)	札幌市スポーツ協会が保有する資源を最大限活用することで、優れた素質を有する子どもたちを早期に見出し、札幌から世界に羽ばたくトップアスリートの育成を図る。	・冬季競技の育成種目、5種目の選定を行った。(スノーボード、スキージャンプ、ノルディック複合、フリースタイル(モーグル)、カーリング)	○
さっぽろアスリートサポート事業	さっぽろアスリートサポート事業	次世代のトップアスリート育成及び札幌市のスポーツ活動の充実と発展に寄与する団体・個人のスポーツ活動を促進(各種大会参加経費への補助など)	・2019年度は台風19号や小雪、新型コロナウイルスの流行が影響し、スポーツ大会が中止となったことにより、補助件数は昨年度より減少した。 ・補助件数: 412件 ※上記人数は、スポーツ振興基金助成金及びさっぽろアスリートサポートの合算。	○
スポーツ団体と企業とのマッチング制度の検討	スポーツ支援企業マッチング事業	事業化に向けた検討中	・2019年時点では事業化に至らなかったが引き続き検討中	-

(3) プロスポーツチームとの連携によるスポーツ振興				
具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
プロスポネット SAPPOROによる取組	プロスポネット SAPPORO連携事業	札幌市に本拠地を置く4つのプロスポーツチーム (ファイターズ、コンサドーレ、レバンガ、エスポ ーラダ)と連携して観戦文化の醸成を図る	・区民応援デー ・キッズデー ・他部局連携(教育、消防) ・共通カレンダー作成 ・合同動画制作 ・ミニサッポロへの出展	○
北海道日本ハムファイ ターズ屋内練習場の市 民開放	ファイターズ屋内練習場 市民開放事業 (学校施設等開放事業)	ファイターズ屋内練習場を小中学生が使用する 際の経費を補助	・小、中学生の利用回数48回に対して補 助を行った。	○
北海道コンサドーレ札 幌との連携によるウイ ンタースポーツの普及 振興	北海道コンサドーレ札 幌との連携によるウイ ンタースポーツ普及振興	コンサドーレの情報発信力や興行ノウハウをい かし、ウィンタースポーツの普及振興やアスリ ートの育成を目指す	・さっぽろっ子ウィンタースポーツ料金助 成事業(夏季スケート)への協力 ・啓発イベント・事業との連携 ・SNSによる情報発信など	○

自己評価基準	◎：当初の予定通り事業を実施できたもの ○：概ね予定通り事業を実施できたもの ▲：予定通り事業を実施できず今後に向けて検討を要するもの -：外的要因により未実施のもの、当該年度時点で事業化に至っていないもの
--------	--

目標2 スポーツの力で「さっぽろ」をかえる

方針4 スポーツを通じた共生社会の実現

施策9 障がい者スポーツを振興します

(1) 障がい者スポーツの普及・振興の促進

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
区体育館における障が いのある方の利用促 進	障がい者スポーツ体験 会の実施 (障がい者スポーツ普及 促進事業)	各区体育館において様々な競技の体験会を実 施し、障がい者スポーツの裾野拡大や市民理解 の促進を図る。 また、月寒体育館やどうぎんカーリングスタジ アムでは冬季バラスポーツ体験会も開催	・年間を通じ様々な体験会等を実施した が、2月に実施を予定していたパラアイス ホッケー体験会が新型コロナウイルス感 染症の拡大のため中止となるなどの影 響により、参加人数は延べ1,355人となっ た。	○
障がい者スポーツ指導 者養成講習会の開催	障がい者スキー普及及 促進事業 (障がい者スポーツ普及 促進事業)	障がいのある方のウィンタースポーツの裾野拡 大を目的として、バيسスキー・シットスキーの指導 者養成講習会及び体験会を開催	・2018年度よりシットスキー及びバيس スキーについて指導者養成講習会を実施 しており、これまでに延べ46人が受講し ている。	○
障がい者スポーツ普及 促進協議会の設置	障がい者スポーツ普及 促進協議会の設置 (障がい者スポーツ普及 促進事業)	学識経験者をはじめ、障がい者団体や競技団 体、スポーツ施設運営者など多様な関係者から なる協議会を設置し障がい者スポーツの普及促 進を図る	・2018年度より、障がい者スポーツの普 及促進と関係者の連携強化を目的にス ポーツ団体や民間企業出身の委員等か ら成る「札幌市障がい者スポーツ普及促 進協議会」を設置しており、2019年度は 3回の会議を開催した。	○

(2) 障がい者スポーツの拠点づくり

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
障がい者スポーツクラ ブの拠点づくり	障がい者スポーツ専用 の学校開放 (障がい者スポーツ普及 促進事業)	障がい者スポーツの活動の場の拡充を目的と して、みなみの杜高等支援学校の体育館で障が い者スポーツ専用の学校開放を実施	・稼働率は年々上昇しており、2019年度 は74.6%となった。	◎
	バラスポーツクラブ SAPPOROの運営 (障がい者スポーツ普及 促進事業)	スポーツを継続して楽しめる拠として「障がい者 スポーツクラブ」を開設し、肢体不自由のある子 どもが初心者であっても気軽にスポーツを楽しめ る環境づくりを整備	・2019年度より、肢体不自由のある子 どもを対象として定期的に様々な競技を指 導する「バラスポーツクラブ-SAPPORO」 を運営しており、7～2月の間、活動 を行った。	

(3) 障がい者スポーツ大会の開催や選手派遣への支援

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
障がい者スポーツ大会 の開催や選手派遣へ の支援	全国障害者スポーツ大 会札幌市選手団派遣 (障がい者スポーツ普及 促進事業)	全国障害者スポーツ大会に札幌市選手団を派 遣	・2019年度は台風の影響により大会が 中止となったため、派遣を行えなかつ た。	○
	札幌市障がい者スポ ーツ推進事業補助金 (障がい者スポーツ普及 促進事業)	障がい者スポーツ大会開催事業や選手団派遣 に係る交通費等への助成	・はまなす車いすマラソンの開催に当た り補助金を交付したほか、全国ろうあ者 スポーツ大会及び全国障害者スポーツ 大会東北・北海道ブロック予選へ参加す る選手及びスタッフに対し交通費等を助 成した。	

(4) スポーツ施設のアクセシビリティ向上

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
スポーツ施設の計画的な保全、改修	スポーツ施設リフレッシュ事業	市民が安全・安心・快適にスポーツに親しめる環境を維持していくため、スポーツ施設の計画的な保全、改修、大型備品の更新を行う。	・手稲区体育館競技室床保全 ・スポーツ交流施設ピッチャーマウンド等保全 ・スポーツ交流施設ラウンジ開き扉交換業務 ・円山陸上競技場スタンドベンチ保全 ・白石区体育館競技室床保全	○
障がいの種別や特性を考慮した誰もが利用しやすいスポーツ施設の運営	各区体育館等において指定管理者が実施	各区体育館等の指定管理者であるさっぽろ健康スポーツ財団(現・札幌市スポーツ協会)では「障がいのある方への配慮のガイドライン」を策定し誰もが利用しやすい施設運営を行う	・障がいのある方への配慮のガイドライン(H28.10策定、H30.5改定)に基づき、誰もが利用しやすい運営を行い、共生社会の実現を目指す。	○
スポーツ施設におけるバリアフリーマップ導入の検討	各区体育館等において指定管理者が実施	各区体育館等の指定管理者であるさっぽろ健康スポーツ財団(現・札幌市スポーツ協会)において「バリアフリーマップ」の導入を検討	・HPのフロアマップにおいて、多目的トイレなどの表示を行っているが、より誰もが使いやすいバリアフリーマップの作成へ向けて、他企業や団体などの情報収集を行い、札幌市のスポーツ施設におけるマップのあるべき姿の検討を進めている。	○
スポーツ施設ホームページのアクセシビリティ向上	各区体育館等において指定管理者が実施	各区体育館等の指定管理者であるさっぽろ健康スポーツ財団(現・札幌市スポーツ協会)では「ウェブアクセシビリティ方針」を策定し誰もが利用しやすいホームページ運営を行う	・ウェブアクセシビリティ方針が策定され、ホームページ上に公開されている。 ・ホームページのJIS X 8341-3:2016に基づいた試験が行われており、適合レベルAAに準拠している。	○

施策10 スポーツを通じた国際交流、異文化理解を推進します

(1) 姉妹都市との国際スポーツ交流の実施

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
国際親善ジュニアスポーツ姉妹都市交流事業	国際親善ジュニアスポーツ姉妹都市交流事業(スポーツ姉妹都市交流事業)	スポーツを通じて相互理解・友好親善を深め、国際感覚豊かな人材を育成するため、各姉妹都市の中学生選手団と札幌の中学生選手団がスポーツを介して交流を行う	・新型コロナウイルスの影響により派遣見送り。	-
札幌マラソン大会姉妹都市交流事業	札幌マラソン大会姉妹都市交流事業(スポーツ姉妹都市交流事業)	スポーツを通じて相互理解・友好親善を深め、国際感覚豊かな人材を育成するため、5年毎の姉妹都市提携記念年に該当する相手都市から選手団を札幌マラソン大会に招待	・2019年度は札幌マラソンではなく札幌国際スキーマラソンの招待を検討していたが、雪不足で中止となった。	-

(2) スポーツを通じた国際交流の推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
国際交流館におけるスポーツや健康づくりをきっかけとした異文化理解の促進	札幌国際交流館における国際交流事業	札幌国際交流館において、「Let's ウィンタースポーツ～カーリング体験」や「英語deフィットネス～サルサ～」など、市民外国人がスポーツを通じて相互理解及び親善を深められる事業を実施	・外国人とスポーツ交流しよう①(ZUMBA)、Let's ウィンタースポーツ(カーリング体験)、アメリカンフットボール初心者体験会、フットサルフェスティバル、ワールドスポーツ、英語deフィットネス空手、外国人とスポーツ交流しよう②(YOGA)計7件の事業を実施してスポーツを通じて市民と外国人の交流を図った。	○
国際交流を目的とした国際スポーツ大会への参加支援	さっぽろアスリートサポート事業(スポーツ振興基金助成金(国際交流の部))	次世代のトップアスリート育成のため、各種大会参加経費等へ補助	・2019年度は台風19号や小雪、新型コロナウイルスの流行が影響し、スポーツ大会が中止となったことにより、補助件数は昨年度から減少した。 ・補助件数: 23件	○
ラグビーワールドカップ2019TMの開催を契機とした国際交流	ラグビーワールドカップ2019開催事業	外国人おもてなし事業、ファンゾーン運営など	①大通公園西2丁目会場及びJR札幌駅南口イベント広場でファンゾーンを開催。多数の外国人観戦客が訪れ、市民との交流を楽しんだ。外国人観戦客含む延べ来場者数は52,397人。 ②さっぽろ創世スクエアで茶道・着付け等を体験できる日本文化体験イベントを開催。外国人観戦客を中心に110名が訪れ、日本文化を体験した。	◎
札幌国際スキーマラソン大会の開催を通じた国際交流	札幌国際スキーマラソン大会選手交歓会における選手間の国際交流	札幌国際スキーマラソン大会の前日に開催する選手交歓会において、国内・海外選手の交流を図り、それぞれの国の文化や習慣などに触れ合う機会を創出する	・2020年2月2日開催予定だったが、雪不足のため中止となった。	-

方針5 スポーツを通じた経済・地域活性化

施策11 札幌の特色をいかしたスポーツツーリズムの推進、交流人口の拡大に努めます

(1) さっぽろグローバルスポーツコミッションによる取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
スポーツツーリズムの推進	スポーツツーリズム振興 (地域スポーツコミッション事業)	札幌市、北海道の豊富なスポーツ資源を最大限活用することで、ウインタースポーツを中心とするスポーツツーリズムを推進する。	・ラグビーワールドカップ2019日本大会におけるメディア対応ブースの設置 ・2019札幌マラソン大会における多言語対応 ・「北京ウインタースポーツ博覧会(中国)」、「Snow Travel EXPO 2019(豪州)」、「JAPAN ROADSHOW 2019(豪州)」、「GO EXPO Winter(フィンランド)」におけるブース出展や商談会の実施	○
海外代表合宿の誘致	国際競技大会や事前合宿等の誘致 (地域スポーツコミッション事業)	札幌市、北海道の豊富なスポーツ資源を最大限活用することで、国際競技大会や事前合宿の誘致、開催支援を行う。	・「スポーツアコード2019(豪州)」におけるブース出展や商談会の実施 ・「スマートシティーズ & スポーツサミット2019」におけるランチレセプションの実施 ・東京2020大会パラリンピック事前合宿にかかるウクライナ視察団受入れ	○

(2) 市民スポーツ大会の開催支援

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
市民スポーツ大会の開催支援	市民スポーツ大会の開催支援 (スポーツ事業助成事業)	各種スポーツ大会への助成	開催支援した大会 ・札幌市民体育大会(22,730人) ・札幌マラソン(12,466人) ・北海道マラソン(18,839人) ・札幌国際スキーマラソン(中止) ・北海道を歩こう(1,327人)	◎

施策12 札幌のスポーツ資源をいかしたスポーツの楽しみ方を提供します

(1) 札幌の魅力をいかした観光資源の活性化検討

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
大倉山や札幌オリンピックミュージアムの魅力アップ	大倉山・オリンピックミュージアム魅力アップ事業	大倉山ジャンプ競技場、ミュージアムを活用し、オリパラ教育の推進、オリパラ招致の機運醸成、パラリンピックへの理解促進を図る	・大倉山ジャンプ競技場及びミュージアムを活用した、オリパラ招致の機運醸成を図ること等を目的に、北海道オール・オリンピックズ活動拠点「オリパラ・サロン」を開設した。 ・来館者数:114,703人	◎
札幌ドームの活用促進の検討	札幌ドーム活用促進事業	札幌ドームが持つ多目的市民利用施設としての能力、可能性を最大限発揮させるため、機能拡充を推進しドームの活用促進を図る	・2019年度は未実施。2020年度から事業化の予定。	-
スキーを始めとしたウインタースポーツ体験の機会創出	スノーリゾート推進事業	都市型スノーリゾートシティとしてのブランド化を目指した計画を策定するとともに、市内スキー場、宿泊施設等の民間事業者による共同事業を支援	・スノーリゾート推進に向けて、市内外のスキー場の現状や、市場の動向、関係事業者の意向、外国人スキー客のニーズ等を把握するため、基礎調査を実施。	○

(2) プロスポーツチームとの連携によるシティプロモート

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
プロスポーツチームとの連携によるシティプロモート	Bリーグオールスターゲーム2020開催事業	Bリーグオールスターゲーム2020の開催を契機としたシティプロモート及び市民交流事業を実施	・新型コロナウイルスの関係で3月27日以降の試合が中止となったものの、2019-2020シーズンの平均来場者数は3,764人となった。 ・これはBリーグオールスターゲームの開催により、Bリーグ人気が高まったことも一助になったと思われる。	○

(3) 官民連携によるスポーツ環境整備手法の研究

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
官民連携によるスポーツ環境整備手法の研究 【再掲】	ウインタースポーツ・オフシーズン練習施設整備費補助金	市民が一年を通じてウインタースポーツに親しめる環境を整備するため、民間事業者による施設整備に対して費用の一部を補助	①ばんけいスキー場:b-SAPの整備 ②CRASS:トランポリン施設改修	○

自己評価基準	◎：当初の予定通り事業を実施できたもの ○：概ね予定通り事業を実施できたもの ▲：予定通り事業を実施できず今後に向けて検討を要するもの -：外的要因により未実施のもの、当該年度時点で事業化に至っていないもの
--------	--

目標3 スポーツの力で「世界」へつなげる

方針6 「さっぽろ」の魅力を世界に発信

施策13 国際大会やスポーツイベントを通じて国内外へ札幌の魅力を発信します

(1) ラグビーワールドカップ2019TMの開催

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
ラグビーワールドカップ2019TMの開催	ラグビーワールドカップ2019開催事業	ラグビーワールドカップ2019を開催することにより、トップレベルのスポーツに触れる機会を提供するとともに、国内外へシティプロモートを実施。	・ラグビーワールドカップ2019大会を開催した。	◎

(2) 東京2020オリンピック・サッカー競技の開催

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
東京2020オリンピック・サッカー競技の開催	東京2020オリンピック・パラリンピック開催事業	東京2020の開催を通して、オリンピックの持つブランド力を活用し、市民のスポーツへの関心を高めつつ、世界に対し札幌の魅力を広く発信（サッカー・マラソン・競歩）	・東京2020の開催延期に伴い、2021年度に繰り越して開催予定。	-

(3) 国際スポーツ会議の誘致に向けた取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
国際スポーツ会議の誘致に向けた取組 ※国際スポーツイベントも実績に含める	国際スポーツ大会等誘致促進事業	冬季オリパラ招致に向け、ウインタースポーツ競技を中心に国際大会等を誘致するため、競技団体等の主催者に開催経費を補助	・2019アジア地域青少年アイスホッケーリーグ札幌大会 ・2019NHK杯国際フィギュアスケート競技大会	○

(4) さっぽろグローバルスポーツコミッションによる取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
スポーツツーリズムの推進 【再掲】	スポーツツーリズム振興（地域スポーツコミッション事業）	札幌市、北海道の豊富なスポーツ資源を最大限活用することで、ウインタースポーツを中心とするスポーツツーリズムを推進する。	・ラグビーワールドカップ2019日本大会におけるメディア対応ブースの設置 ・2019札幌マラソン大会における多言語対応 ・「北京ウインタースポーツ博覧会（中国）」、「Snow Travel EXPO 2019（豪州）」、「JAPAN ROADSHOW 2019（豪州）」、「GO EXPO Winter（フィンランド）」におけるブース出展や商談会の実施	○
海外代表合宿の誘致 【再掲】	国際競技大会や事前合宿等の誘致（地域スポーツコミッション事業）	札幌市、北海道の豊富なスポーツ資源を最大限活用することで、国際競技大会や事前合宿の誘致、開催支援を行う。	・「スポーツアコード2019（豪州）」におけるブース出展や商談会の実施 ・「スマートシティーズ&スポーツサミット2019」におけるランチレセプションの実施 ・東京2020大会パラリンピック事前合宿にかかるウクライナ視察団受入れ	○

方針7 世界が憧れるウインタースポーツの拠点都市へ発展

施策14 オリンピック・パラリンピックムーブメントを推進します

(1) 市民の招致機運の醸成に向けた取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
冬季オリンピック・パラリンピック招致活動	冬季オリンピック・パラリンピック招致事業	冬季オリパラ招致を目指し、次世代に過度な負担を残すことのない、まちづくりと連動した大会の開催概要計画の策定を行うとともに、機運醸成の取組や招致活動を図る。	・機運醸成の取組みを継続 ・IOCとの対話の機会を活用しながら施設整備や大会運営のあり方等について協議した。	○
冬季オリンピック・パラリンピック招致活動を通じた道内連携の促進	冬季オリンピック・パラリンピック招致事業	冬季オリパラ招致を目指し、次世代に過度な負担を残すことのない、まちづくりと連動した大会の開催概要計画の策定を行うため、会場や周辺自治体との連携を図る	・道内の経済団体、関係自治体と情報を共有を行うため冬季オリンピック・パラリンピック道内関係実務者会議を実施	○
1972年札幌オリンピック50周年記念事業の実施検討	1972年札幌オリンピック50周年記念事業	2021年度に記念事業を実施し、2030年冬季オリパラ招致の機運醸成を推進	・2021年度の事業の実施に向けての検討を進めた。	○

(2) オリンピック・パラリンピック教育の推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
オリンピック・パラリンピックを招へいし、講話や体験活動を行う学校教育	オリンピック・パラリンピック教育推進事業	オリンピック・パラリンピック教育研究推進校を指定し、教育課程に位置付けられている教育活動と関連を図ったオリンピック・パラリンピック教育の学習モデルづくりに係る研究を行い、その成果を全市に普及する	・オリンピック・パラリンピック教育研究推進校の指定を拡充するとともに（H30:75校→R1:91校）、小学校3年生向け札幌版副教材や中高教員向け指導資料集を配布した。	◎
札幌オリンピックミュージアムを活用した学校教育の推進	大倉山・オリンピックミュージアム魅力アップ事業	大倉山ジャンプ競技場、ミュージアムを活用し、オリパラ教育の推進、オリパラ招致の機運醸成、パラリンピックへの理解促進を図る	・市内の小中学校等61校にオリパラ教育を行った。	○
大倉山や札幌オリンピックミュージアムの魅力アップ 【再掲】	大倉山・オリンピックミュージアム魅力アップ事業	大倉山ジャンプ競技場、ミュージアムを活用し、オリパラ教育の推進、オリパラ招致の機運醸成、パラリンピックへの理解促進を図る	・大倉山ジャンプ競技場及びミュージアムを活用した、オリパラ招致の機運醸成を図ること等を目的に、北海道オール・オリンピックズ活動拠点「オリパラ・サロン」を開設した。 ・来館者数：114,703人	◎

施策15 札幌ブランド、シビックプライドを醸成します

(1) スポーツを核としたまちづくりの研究

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
スポーツと集客交流の拠点づくりの検討	スポーツと集客交流の拠点づくり事業	事業化に向けて検討中	・2019年時点では事業化に至らなかったが引き続き検討中	-
将来を見据えたスポーツ施設の再配置、再整備の検討 【再掲】	スポーツ施設配置・活用計画策定事業	今後の人口減少や超高齢社会、多様化するニーズに対応するため、オリパラ等の競技大会への対応や更新費用の平準化等を考慮した計画を策定	・計画の策定に向けて、各種検討や関係者による調整等を行ったが、策定には至らず、2020年度に策定予定である。	▲

(2) 冬季版ハイパフォーマンセンター（HPC）の誘致に向けた取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
冬季版ハイパフォーマンセンター（HPC）の誘致に向けた取組	冬季版ハイパフォーマンセンター誘致事業	冬季オリパラ招致を目指す都市として、ウインタースポーツの振興や競技力の向上に向けて、冬季版ハイパフォーマンセンターを誘致	・要望活動の実施 札幌市重点要望において、冬季版HPSC誘致を要望 ・勉強会の開催 有識者を迎え、誘致する施設の構想案を検討する勉強会を開催	○

(3) 地元出身アスリートの発掘・育成体制等の研究

具体的な取組	事業名	事業内容	2019年度実施状況	自己評価
スポーツ施設を戦略的に活用したアスリートの発掘 【再掲】	さっぽろジュニアアスリート発掘・育成（さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業）	札幌市スポーツ協会が保有する資源を最大限活用することで、優れた素質を有する子どもたちを早期に見出し、札幌から世界に羽ばたくトップアスリートの育成を図る。	・冬季競技の育成種目、5種目の選定を行った。（スノーボード、スキージャンプ、ノルディック複合、フリースタイル（モーグル）、カーリング）	○
アスリートの活用 【再掲】	オリンピックズキャラバン事業（アスリート活用事業）	地域で行われるスポーツ体験会等へオリンピック等を派遣して地域のスポーツ活動の振興、地域の活性化を図る	・2019年度は17イベントにオリンピック等を派遣。 ・イベント参加者延べ4,659人。	○
さっぽろアスリートサポート事業 【再掲】	さっぽろアスリートサポート事業	次世代のトップアスリート育成及び札幌市のスポーツ活動の充実と発展に寄与する団体・個人のスポーツ活動を促進（各種大会参加経費への補助など）	・2019年度は台風19号や小雪、新型コロナウイルスの流行が影響し、スポーツ大会が中止となったことにより、補助件数は昨年度より減少した。 ・補助件数：412件 ※上記人数は、スポーツ振興基金助成金及びさっぽろアスリートサポートの合算。	○
スポーツ団体と企業のマッチング制度の検討 【再掲】	スポーツ支援企業マッチング事業	事業化に向けて検討中	・2019年時点では事業化に至らなかったが引き続き検討中	-

自己評価集計

◎	34	当初の予定通り事業を実施できたもの
○	52	概ね予定通り事業を実施できたもの
▲	2	予定通り事業を実施できず今後に向けて検討を要するもの
-	11	外的要因により未実施のもの、当該年度時点で事業化に至っていないもの